

第四回日本工學會大會

範 圍

一、東 洋

日 程

一、總 會	昭和十五年四月二日(火)	東京帝大安田講堂
二、部 會	" 四月三、四日(水、木)	" 各教室
三、見 學	" 四月五、六日(金、土)	東 京 附 近
四、晚 餐 會	" 四月二日(火)夜	上 野 精 養 軒
五、工 業 展 覽 會	" 四月二、三、四日(火、水、木)	東 京 帝 大 構 內
六、通 俗 講 演 會	" 四 月 日	未 定
七、無 線 放 送	" 四 月 日	東 京 中 央 放 送 局

申 込

明春各學協會ヨリ送付スル大會次第書ニ依リ所屬ノ學協會ヘ申込ヲ爲スコト、但シ數箇ノ學協會所屬會員ハ希望ノ一學協會ヘ申込ヲ爲スコト。

第四回日本工學會大會規則

第1章 會ノ名稱、時期及場所

第一條 本大會ハ之ヲ第四回日本工學會大會ト稱シ昭和十五年四月東京ニ於テ之ヲ開催ス

第2章 會ノ目的

第二條 本大會ハ東洋諸國ニ於ケル工學及工業關係者協同シテ次ニ掲クル事項ヲ遂行スルヲ以テ目的トス

一、工學及工業ニ關スル論文ノ發表及意見ノ交換ヲ爲シテ智識ヲ増進シ且懇親ヲ圖ルコト

二、發表ノ論文、意見並決議ヲ記録シテ工學及工業ニ關スル參考資料ト爲スコト

第3章 會議及施設

第三條 本大會ハ總會及部會ノ二種トシ更ニ第二條ノ目的ヲ達成スル爲メ次ノ事業ヲ行フ

見學、記録ノ出版、工業ニ關スル展覽會、其ノ他會議ノ目的達成ニ必要ナル事項

第四條 總會ニ於テハ重要事項ノ審議及報告並會員ヨリ提出セラレタル決議事項ヲ審議ス

第五條 部會ニ於テハ論文ヲ發表シ之ニ對スル意見ヲ交換ス部會ハ發表セラルベキ論文ノ種類ニ應シ適宜數箇ニ分類シテ

之ヲ設ク

第六條 見學ハ東京地方ヲ主トス、但シ海外ヨリ來朝ノ會員ニ對シテハ其ノ他ノ地方ニ涉リテ之ヲ行フコトアルヘシ

第七條 本大會ニ於テ發表セラレタル論文、意見、決議ハ之ヲ刊行ス

第八條 展覽會ハ主トシテ日本帝國內ノ工業ニ就キ會期中適當ノ場所ニ之ヲ開ク

第4章 會ノ役員

第九條 本大會ニ會長、副會長、委員長、委員ヲ置ク、本大會ニ顧問ヲ置クコトヲ得

第十條 會長ハ日本工學會理事長ニ當ル會長ハ本大會ヲ統轄ス

第十一條 副會長ハ日本工學會社員タル各學會會長ニ當ル副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 委員長ハ委員ノ互選ニヨリ決ス委員長ハ大會委員ノ事務ヲ統轄ス

第十三條 委員ハ日本工學會社員タル各學會ノ推薦ニ係ルモノ及ビ日本工學會理事長之ヲ囑託ス

委員ハ庶務、講演、見學、展覽會、記録、會場、接待、晚餐會ノ區分ニ依リ各委員會ヲ組織シ本大會ノ計畫及實施ニ關スル事項ヲ分擔ス

第十四條 各委員會ニハ夫々主任ヲ置キ各委員會ノ事務ヲ主裁

ス

各委員會主任ハ委員總會ニ於テ選舉ス

第十五條 各委員會主任ヲ以テ主任委員會ヲ組織シ大會委員長ヲ以テ之ガ委員長ニ充ツ

主任委員會ニ於テハ各委員會ノ連絡及特ニ定メラレタル事項ヲ審議ス

主任委員會ハ常ニ日本工學會理事ト連絡ヲ取ルモノトス

第十六條 日本工學會理事ハ會長及ビ委員長ヲ輔佐シ委員ト共ニ大會事務遂行ノ任ニ當ル

第十七條 委員ノ職務ヲ輔佐スル爲メ事務員ヲ置ク事務員ハ日本工學會理事長之ヲ囑託ス

第5章 會員ノ種類及資格

第十八條 會員ノ種類ヲ次ノ四種トス

一、代表 二、名譽員 三、正員 四、客員

第十九條 代表ハ各國ノ官衙、大學、專門學校、學會、協會其ノ他ノ學術的諸機關ノ代表者トス

大學、專門學校、學會、協會其ノ他ノ學術的諸機關ノ存在セザル國ニ在リテハ之ニ準スベキモノノ推薦ニ係ル者ヲ以テ代表ト爲スコトヲ得

第二十條 名譽員ハ日本工學會評議員會ノ決議ニ依リ推薦セラレタル者トス

第二十一條 正員ハ工學及工業ニ關係アル各國ノ諸學會協會其他學術的諸機關ノ會員ニシテ參會ノ申込ヲ爲シタル者トス

前項ノ外參會ノ申込ヲ爲シタル者ニシテ本大會主任委員會ニ於テ前項會員ニ準スル者ト認メタル者ハ之ヲ正員トス

第二十二條 客員ハ本會ヨリ招待シタル者並代表、名譽員又ハ正員ノ夫人及本大會主任委員會ノ銓衡ヲ經タル同伴者トス

第二十三條 代表、名譽員及正員ハ總會及部會ニ出席シ其ノ決議ニ加ハリ且見學其ノ他本會ノ各種施設ニ參加スルコトヲ得客員ハ前項ノ會員ト同一ノ待遇ヲ受ク、但決議ニ加ハルコトヲ得ス

第6章 論文ノ範圍及條件

第二十四條 本大會ニ提出スヘキ論文又ハ報告ノ範圍ハ工學及工業ノ總テノ部門ニ涉リ其ノ關係箇所ノ地域ヲ限定セサルモノトス

第二十五條 論文又ハ報告ハ指定題目ニ依ルモノ及任意題目ニ依ルモノノ二種トス

第二十六條 指定論文又ハ報告ノ題目ハ講演委員會ニ於テ之ヲ選定シ任意題目ニ就キ提出ノ論文又ハ報告ハ會議ノ目的ニ適合スルヤ否ヤニツキ講演委員會ニ於テ之ヲ審査ス前項論文又ハ報告ハ日本語ヲ以テ記述スルモノトス但シ(イギリス語)又ハ(ドイツ語)ニ依ルヲ妨ケス

第二十七條 論文又ハ報告ハ講演委員會ニ於テ審査ノ上次ニ掲クル方法ノ一ニ依リ之ヲ處理ス

一、全部ヲ發表ス

二、所論ノ要旨ノミヲ發表ス

三、所論ノ項目ノミヲ發表ス

前項發表ノ方法ハ總會又ハ部會ニ於ケル朗讀、演述若ハ印刷配布ノ方法ニ依ル

第7章 論文題目ノ種類

第二十八條 論文ノ種類ハ別ニ定ムル論文種別ノ通りトス

第8章 用 語

第二十九條 總會及部會ニ於テ用フヘキ國語ハ日本語トス但シ(イギリス語)又ハ(ドイツ語)ヲ使用スルヲ妨ケス

第9章 會 費

第三十條 正員ハ參加會費トシテ金五圓ヲ支拂フモノトス、但シ日本工學會ノ社員タル各學協會ノ會員ノ參加會費ハ金五拾錢トス

第10章 細 則

第三十一條 本規則ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

細則ハ主任委員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

論文提出ニ關スル注意

1. 論文ニ關シテハ大會規則「第六章及第七章」參照ノコト。
2. 論文ヲ提出セントスルモノハ必ズ本大會ニ參加スルコト。但シ論文提出者ガ二名以上連名ノ場合ハ少ク共一名ガ參加者タルコト。
ニツ以上ノ學協會ニ所屬スル參加者ガ參加ヲ申込マザル學協會ニ論文ヲ提出スル場合ニハ參加申込ヲナシタル學協會名及ピンノ旨ヲ附記スルコト。
3. 論文ノ型式ハ發表セントスル各自ノ所屬學協會ノ規程ニヨルコト。
4. 論文提出希望者ハ下記ニヨリ申込ムコト。
a. 日本工學會社員タル學協會ノ會員ハ各其ノ所屬學協會ノ定ムル所ニ依ル。
b. 前項以外ノ會員ハ昭和十四年十二月末日迄ニ其ノ題目、論文(邦文ナラバ一萬字、英文或ハ獨文ナラバ五千語以內)及梗概(邦文ナラバ千字、英文或ハ獨文ナラバ五百語以內)並講演所要時間其他映寫設備ノ要否等ヲ日本工學會ヘ通知スルコト。
5. 論文及ビ其ノ梗概ニハ著者ノ姓名、住所、學位、稱號、職業及ビ所屬學協會名ヲ記載スルコト。
6. 附圖ハ其ノ儘複寫シ得ル様墨書ニテ明瞭ニ認ムベキコト。
7. 寫眞ハ其ノ儘複寫シ得ル様明瞭ナルベキコト。

第四回日本工學會大會講演部門內容

(1) 工學及工業ニ關スル一般の諸問題(工學會擔當)
工業教育; 工學的研究ノ統合及促進; 統計; 規格及標準化; 科學的管理法; 工業技術者ノ國際的協力; 等

(2) 應用力學(工學會擔當)
彈性論; 材料力學; 構造力學: 材料ノ機械的性質; 工業力學; 構造物及機械ノ振動; 流體力學; 水力學; 熱力學; 熱傳達; 等

(3) 建築工學(建築學會擔當)
建築計畫; 建築歴史; 都市計畫; 住宅問題; 建築材料; 建築構造; 採光換氣; 建築音響; 耐火; 耐震; 耐風建築; 防風建築; 等

(4) 土木工學(土木學會擔當)
橋梁及構造物; 鐵道; 港灣; 河川; 運河; 灌溉; 水力發電; 上下水道; 道路; 都市計畫; 測量; 等

(5) 電氣工學 (電氣學會擔當)

電氣物理; 電氣測定; 電子管; 電氣材料; 電氣機械; 發, 送, 配電; 電氣鐵道; 電動力應用; 電氣化學; 等

(6) 通信工學 (電氣通信學會擔當)

有線電信; 有線電話; 無線電信; 無線電話; 寫真電送; 無線放送; 無線標識; 電視; 鐵道信號; 光線電話; 水中電話; 等

(7) 照明工學 (照明學會擔當)

光源; 照明; 測光; 電熱; 等

(8) 機械工學 (日本機械學會擔當)

熱機關 (航空發動機ヲ含ム); 蒸氣罐; 水力機; 空氣機械; 工作機械; 工作法; 起重機及運搬設備; 鐵道車輛; 自動車工學; 火力及水力發電所工學; 紡織; 機構; 機素; 等

(9) 精密機械及計測機器 (火兵學會擔當)

測定機械器具; ゲージ類; 精密工作機械及工具; 治具及取附具; 材料試驗; 等

(10) 造兵工學 (火兵學會擔當)

火炮構造及理論; 射擊指揮裝置; 彈道學; 彈丸; 魚雷; 機雷; 火藥; 等

(11) 冷凍工學 (日本冷凍學會擔當)

冷媒; 冷凍機; 冷凍設備; 熱絕緣; 冷藏庫; 製冰工業; 冷藏輸送; 等

(12) 衛生工學 (衛生工業協會擔當)

暖房; 換氣; 空氣調和; 衛生工事; 等

(13) 造船學, 船用機關學及航空工學 (造船協會擔當)

理論造船學; 造船設計及船體構造; 主及補助機關; 艙裝; 救命

設備; 施工法; 工場設備; 航空工學; 等

(14) 化學工業 (工業化學會擔當)

無機及有機化學工業; 合成化學工業; 電氣化學工業; 燃料; 化學工學; 等

(15) 採礦及冶金, 金屬及合金 (日本礦業會, 日本鐵鋼協會擔當)

應用地質; 採礦; 選礦; 鐵及非鐵冶金; 金屬及合金; 製造冶金; 等

(16) 熔接工學 (熔接協會擔當)

熔接機器; 熔接棒及被覆劑; 熔接接手; 熔接ノ應用; 各種試驗; 等

(17) 鑄物工業 (日本鑄物協會擔當)

鋼鑄物; 鐵鑄物; 銅合金鑄物, 輕合金鑄物; 等

注 1. 各學協會所屬會員ハ其ノ所屬學協會ノ擔當部門ニ論文ヲ提出スルノヲ原則トスル。

2. 第1部門 (工學及ビ工業ニ關スル一般ノ諸問題) 及第2部門 (應用力學) ハ專門ヲ異ニスル者相集リ工學全般ニ互ル諸問題ヲ討議スルモノトシタモノデアル。各學協會所屬會員ニシテ之等諸問題ニ關スル論文ニシテ他ノ部門ニモ屬シ得ル論文ヲ發表セントスル場合ニハ成ルベク之等2部門ニ於テ發表スル事ヲ希望スル, 但シ論文ノ提出ハ各所屬學協會ヲ經由スルコト。